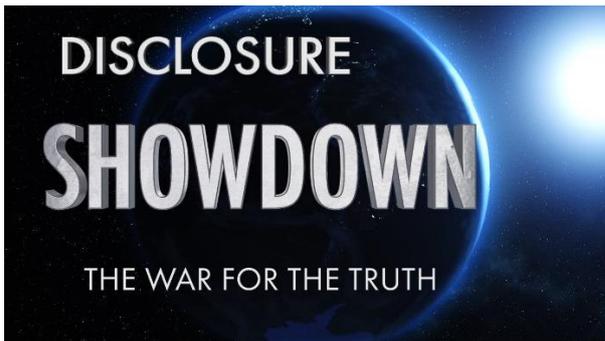


大詰を迎えたディスクロージャー：真理を求める戦争

【訳者注】12月8日のNHKの、ISISなど、テロ組織の資金源を説明するニュース（もっぱら石油の密輸でまかなっているかのようなニュース）は明らかに、米をはじめ西側は、資金援助などしていないと言うためのニュースだった。ここに、これほど徹底的に詳細に暴露されている、巨大銀行によるテロリズム援助の事実を読めば、反論の余地などなく、このタイミングを計った、苦しい報道の意図もよくわかる。

たった一人の銀行員の内部告発でさえ、これだけのことが明らかになるのであれば、2014年1年間に暗殺された44人の銀行員に自由にしゃべらせたら、どれだけの銀行犯罪が明るみに出たでしょうか。なお、このニュースには、そもそもテロ集団を創ったのは誰かという、肝心の点が抜けていた。



(以下は4部に分かれた記事の第1部)

By David Wilcock

November 25, 2015

ロシア航空機の墜落、RT創設者のワシントンDCでの“心臓発作”、ロサンゼルスでの人目を驚かすUFOのようなミサイル実験、パリ襲撃、トルコによるロシア戦闘機の撃墜——これらはすべて、「ディスクロージャー」戦争がクライマックスに達しつつあるというしるしである。

少なくとも6人のインサイダー情報が、「同盟」が大きな意思決定に達したと言っている——彼らはずいに「ディスクロージャー」推進に取り掛かる合意をした。

ディスクロージャーは、我々が今日の世界について知っていると思っているすべてを、すっかり変えてしまうような、極秘情報の大規模な公開を伴うものである。

そこには、遠くない将来、地球の外の知的文明が地球を訪れるという、ある種の公的アナウンスが含まれるだろう。

短期的なそのハシリが、すでに実現されつつある。一方、どれくらいの内容を、いつ言うべきかについての、長期計画的な最初の行動については、いまだ交渉中である。

冒頭にあげた 5 つの、非常に異常な暴力的な出来事はすべて、我々のインサイダーたちがこの新しい情報を我々に——それぞれ独立に——漏らした**後**で起こった。

“旧世界秩序” 集団はこれが起こってほしくない

旧世界秩序「陰謀団」だけが、今ディスクロージャーに反対している。そして例によって、彼らはこれを止めるためにテロリズムを用いている——ロシアとフランスに対して。

これらの攻撃の目的は、「同盟」諸国を脅し恐怖を掻き立てて、この大きな秘密を暴露する決定を考え直させるためだと思われる。

この秘密と、現在戦われている戦争にお構いなく、今から数週あるいは数か月先に、なんらかの非常に興奮を伴う変化が、ついに現れる可能性がある。

あまりにも多くのことが同時に起こっているので、我々の知っていることを一つの研究にまとめて要約するのが重要だと、我々は考える。

[**ご注意**: 読者はこの記事の抜粋を、ご自分のウェブサイトや社会メディアに掲載するのはご自由ですが、アップデートがある可能性があるため、あなたの読者には、このオリジナルに戻るようリンクをお願いします。]

[**アップデート**: これを発表して 3 時間後に、約 7 時間にわたってこのサイトを潰した、大規模な攻撃があった。サーバーによると、これは DDoS ハック攻撃のようだという。]

ここでクリックして、8/24 記事「恐ろしい地球的出来事」をお読みください——批判的なセットアップとコンテキストのため。——翻訳: 11/13 「恐ろしい地球的出来事——集団的覚醒への引き金? (抄)」

これらの悲劇の犠牲者に哀悼の意を捧げる

すべての人たちと同じように、我々も、ロシア航空機の撃墜とパリ襲撃事件にはショックを受け悲しんだ。

いったい米同盟国のトルコが、万民の敵たるテロリスト ISIS を爆撃していたロシアの戦闘機を、撃ち落とすとはどうしたことか？

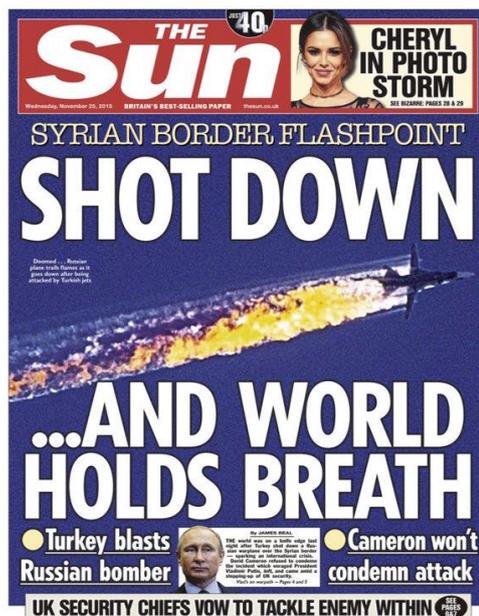
こうしたことが一度に起こるまでは、2 か月ほど事態は落ち着いていた——ネガティブな集団事件が我々一般の注意を支配することはなかった、という意味で。

我々が8月下旬に「恐ろしい地球的出来事」を書いたとき、「大詰め」が急速に近づいているように見えた。<http://divinecosmos.com/start-here/davids-blog/1185-events-awakening>

我々はさらに、2つの大きなデータのセクションを用意していたのだが、まだ決定的な時期が来ていないことが明らかだったので、差し控えていた。

それに、この戦いを続けるために、少し休憩し、深呼吸し、改めて決意する必要があるのは確かである。

現在我々がニュースで見ていること、インサイダーたちから聞いていることから判断して、我々が予期している変化の時はこの時期である。



11/25: 「ロシアが、撃墜されたロシア・ジェット機の近くのシリア反政府軍を爆撃」
<https://ca.news.yahoo.com/russia-bombards-syrian-rebels-near-downed-russian-jet-122428258.html>

この事件は、過去半世紀間に起こった、ロシアと NATO 加盟国の間の、最も深刻な公的に認められた衝突の一つである。

インサイダー・データは物語の一部にすぎない

もしあなたがこの話題が初めてで、「何のインサイダーだ?」とか、もっと軽蔑したようなことを言うなら、多数の警告者と我々の接触は簡単に証明できる——ビデオによって。

私 (デイヴィド) は、39 人のインサイダーの出席した 2001 年の「ディスクロージャー・プロジェクト」に出席した。私は、これらの会議のことにも言及している SIRIUS という呼び物の映画にも出ている。http://www.huffingtonpost.com/denise-m-wilbanks/the-intent-beneath-the-si_b_3222274.html

「シリウス」について詳細を提供する記事が、Huffington Post の「最も見られた」サイドバー欄に、一週間以上、掲載された。<http://divinecosmos.com/index.php/start-here/davids-blog/1109-disclosure-nearly-identical-et-corpses-found-in-russia-and-south-america>

私は Project Camelot と組んで仕事をしたが、これは多くの警告者のビデオを最初の 4 年間に公開したグループで、私は多くの彼らのインサイダーと出会っている。

<http://projectcamelotportal.com/>
<http://projectcamelot.org/index1.html>

私は Pete Peterson のキャメロット・ビデオの第 2 部に出ている。ピートは、我々がこのテープ取りを 6 年前にやって以来、情報源として非常に信頼でき、信用されている。

https://www.youtube.com/watch?v=XJyCG_OHXGg

私はまた、チャーリッヒで取られたこのビデオの真ん中あたりで、NASA 宇宙飛行士の Dr. Brian O'Leary や宇宙計画インサイダー Henry Deacon と一緒に、舞台上に出ている。

<https://www.youtube.com/watch?v=178TJujE5oY>
http://projectcamelot.org/brian_o_leary.html
http://projectcamelot.org/henry_deacon.html

現在、Gaia ネットワークの番組全体を通じて、私は、Cosmic Disclosure というタイトルで、宇宙計画インサイダーの Corey Goode をインタビューしている。

<http://click.linksynergy.com/fs->

[bin/click?id=mTckSPpGJyM&offerid=346926.10000843&type=3&subid=0](http://click?id=mTckSPpGJyM&offerid=346926.10000843&type=3&subid=0)



「コズミック・ディスクロージャー」は、Gaia (以前は Gaia TV) のすべてのこれまでの視聴記録を破り、CNN に並ぶほどのオーディエンスを得ている。

我々は長年にわたって、David's Blog 上で、インサイダー・データをリークし、それぞれ平均 10 万を超える見解の論戦的文章を創り出してきた。

<http://divinecosmos.com/index.php/start-here/davids-blog>

可能な限り、我々は最善を尽くして、インサイダーの証言に一致する、証明可能なデータを見つける努力をしてきた。だから読者は、我々が確かであるか心配していただく必要はない。

進展は苦痛なほどゆっくりしていたが、我々がここに記録してきたディスクロージャー戦争は、常にますます明らかなものになってきた。

無数のニュース・ストーリーが毎週現れ、背後で——地球レベルで——荒れ狂っている秘密の戦争があることを明らかにしている。

真理は確かに小説よりも奇であり、かつ人を惹きつける。そして、それを知ることによって、あなた自身が解決の一部になる。

この調査研究は長い読み物になるが、絶対に退屈なものにはならないだろう。それは、我々が今までに要約して示したことのない、信じざるを得ないデータの物語を提供する。

だから、何であろうと、あなたがしていることを手放し、ベルトを締め、荒野の車旅に備え

るようにお勧めする。

彼らが同じ結果を得るためには、より大きなビッグバンが必要

煙の立ち昇るがれき、死骸、銃声、泣き叫ぶ犠牲者、大怪我をした人々の写真やビデオが、このような出来事の後では、我々の夢に出てくる。

我々が両手をあげて、自分にできることは、彼らの死を嘆くか、もっばら自分の感覚を鈍らせて、苦痛を無視するだけであるかのように感ずるのは、易しいことだ。

これらの出来事が、犯罪者たちが望むような苦痛や恐怖の集団効果を生み出すためには、将来さらに大きく、さらに悲惨なものにならなければならない。

この種の犯罪が「テロリズム」（恐怖戦略）と呼ばれるのは、そのためである。

もし犯罪者たちが、そこから全面戦争——あるいは少なくとも“小出しの”第三次大戦——の引き金を引くことができれば、下のリンクの一つが言っているように、彼らは望みを果たしたことになる。http://www.huffingtonpost.com/entry/pope-francis-world-war-3_5648ab7de4b06037734973e6

November 14, 2015

THE HUFFINGTON POST

INFORM • INSPIRE • ENTERTAIN • EMPOWER

Edition: U.S. • Search The Huffington Post

Like 5.4M Follow 4.1M

FRONT PAGE POLITICS ENTERTAINMENT WHAT'S WORKING HEALTHY LIVING WORLDPOST HIGHLIGHT HUFFPOST LIVE ALL SECTIONS

Media • Comedy • Black Voices • Gay Voices • Sports • Crime • Science • Style • Now What? • Horoscopes • OWN • Dr Phil • GPS for the Soul • Quiet Revolution

HUFFPOST LIVE How The Media Can Better Cover Mizou Can Bernie Catch Up To Hillary? Is Corporate Structure Killing Us? Enter your email address. Subscribe

PARIS HORROR: 129 DEAD, 99 CRITICAL

ISIS Claims Credit, Warns Of More Attacks... 352 Hospitalized... Concert Hall Attackers Evoked Syria And Iraq...



Horrifying Eyewitness Accounts: 'It Was A Bloodbath'... Frenchman Identified As Possible Bomber... Syrian Passport Found Near Attacker... Belongs To Refugee Who Passed Through Greece... Man Arrested In Germany Last Week With Explosives, Headed To Paris... 3 Attackers Thought To Be From Brussels... Suicide Bomber Tried To Enter Stadium... Anne Sinclair: Morning Of War... Pope Part Of 'Piecemeal World War III'... Ted Cruz Calls For Airstrikes With More 'Tolerance For Civilian Casualties'... PHOTOS...
READ FRENCH COVERAGE AT HUFFPOST FRANCE...

もし我々が真理を無視すれば、将来の犠牲者に背を向けることになる

メディアの第一面の見出しは、短い期間しか注目されず、一度に一つの大きな事件だけに焦点を当てる。新しい戦争や大量死事件は、他から注意をそらす、すぐれた役目をする。

これらの惨事は、我々がいまだに、平和で調和ある未来という我々の目標に達していないということを、思い出させるショッキングな契機になっている。

我々は、無辜の人々が、これらの犯罪者の手にかかって殺され続けているときに、傍観者として何もしないで、次の悲劇を待っていることはできない。

このような出来事の後で、“再び眠りにつく”のは簡単だが、結局、次の大ニュースが入ってきたとき、再び恐怖に突き落とされる。

今起こっていることの真相を明らかにすることによって、我々は、地球をテロリズムから、未来永劫、完全に解放する解決策に向かうことができる。

それが理解できるか否かにかかわらず、その真相を知り共有することで、こうした攻撃を行う犯罪者を打ち負かそうと熱心に活動しているある同盟を、我々は助けることになる。

我々はこの報告で、この巨大な国際同盟についての詳しい新しい情報を、共有することになるが、それはすべて、インサイダー情報と証明可能な事実を、照合し確かめたものである。

このゲームはあまりにも恐ろしく、悪者たちは冷酷なので、ほとんどすべての同盟の動きが、秘密の衣に包まれていなければならない。

テロリストとは誰のことか？

いま世界で起こっていることの真相にひとたび目覚めるならば、あなたは、このような大量テロ事件を、同じ目で見ることにはなくなる。

確かに、ISISのようなグループで活動している本物のイスラム主義過激派はいるが、より大きな問題は誰が彼らを資金援助しているか、何のために、ということである。

ISISのような集団が、「権力者であった者たち」(Powers that Were)の政治目標を達成す

るために、彼らに利用されている“代理軍隊”であることを示す証拠は、山のようにある。

秘密政府シンジケート

「権力者であった者たち」とは誰のことか？

彼らの呼び方は何でもよい。彼らは、背後から西洋（西側）世界を支配してきた、秘密政府シンジケートである。

我々が Financial Tyranny で明らかにしたように、彼らが 20 世紀のすべての大きな戦争の両サイドを、ひそかに所有しコントロールしてきたことを発見するのは、ショッキングなことである。

<http://divinecosmos.com/index.php/start-here/davids-blog/1023-financial-tyranny>

これは“インターネット陰謀論”ではない。データは膨大で反論することはできない。ヒトラーは単に、ヒドラの最も悪魔的な顔であるにすぎない。

目撃者証言は、法廷では証拠として認められる。そして数えきれないほどの証人がすでに前面に現れて、のっぴきならない証拠を提出している。

これらの犯罪シンジケートは、我々に向かって、真理を暴く警告者やジャーナリストを、攻撃し、嘲笑し、汚名を着せてやれと、けしかけている。

これは感情的な対抗メカニズムとなる——特に、滅菌された企業メディアの世界で育ってきた、より古い世代にとっては。

そのようなメディアは、我々が支持し、愛し、そしてこの場合には、投票してきた者と一緒にいる“寢室の男”を発見したときの、裏切りのショックを避けさせる働きをしている。



我々の話し合ったインサイダーのすべては、こうした秘密政府シンジケートが存在するという事実について、直接の、個人的経験としての知識をもっている。

我々のこれまで公表してきた情報の多くは、後に正確であることが証明され、新聞見出しになったものもある。

これらのシンジケートは、信じられないほどの策を弄して、真理を嘲笑し、隠ぺいしてきた——すべてあなたの意見を動かすのが目的で。

遥かにより大きな物語が進行している

我々が目にする最大のニュースの多くは、その背後に、我々が理解するより遥かに大きな物語を隠している。

多数のインサイダーによれば、本当の物語が、やがて、ぶっ倒れるようなやり方で一般に知らされるかもしれない。

それは我々の記録された歴史で、最も大きな集団覚醒を、急速に引き起こすであろう。

これらのシンジケートは、フリー・エネルギー、反重力、ポータル（宇宙間）旅行、物質化装置などを含む科学技術、それに地球を癒すことのできる手段を、隠し持っている。

我々はまた、何百万年も遡って、この地球の内部と周囲に、幅広く存在していた知的文明の存在についても、ずっと目隠しされていた。

我々は、現在聞いている情報によって、この調査研究の中に「存在するすべてを取り込む」ように、奨励されている。

正直なところ、私はこの最近のニュースによって、この旅行の他のどのポイントにおいてより以上に、興奮している。私は、これがどのような結末になるかを見るときまで、待つことができない。

ひとたびダムが決壊すれば——そしてそれが早晩起こるのは確実だが——それは遂に、死の脅迫とおどしを受けながら、たゆまず努力してきた長い年月が報われることになる。

“ISIS” は本当に西側によって財政援助され、コントロールされているのか？

これを初めて聞く人々には、ISIS が西側の作戦であり、“大きすぎて倒れようがない” 銀行の支援を受けているというような話は、あまりにも大きな裏切りで、狂気じみた話なので、考えることもできないだろう。

しかし、8月24日の「恐ろしい地球的出来事」で我々が公表した、最初のリンク群を、ここで見直し説明することにしよう。

ロシア航空機の爆発とパリの集団射殺の後で、「ISIS とは誰なのか、何なのか」という疑問が、より大きな緊急性を帯びてきた。

NY タイムズからの我々の最初のリンクは、イラクとイランの両政府の最も高い層が、ISIS が西側の代理軍隊であるのは事実だと考えている、と報じている。

この報道を意味あるものにしてしている一つは、そもそも NY タイムズのような報道機関がそれを報じたという単純な事実である。

彼らは新しい考えを一般大衆に植え付けようとしており、“そんなことはありそうもない” というのは、イラクとイランの政府内では“陰謀説” にすぎない、と言っているのである。

イラクとイランはどんな情報に基づいて、ISIS を西側の創ったものと信じるようになったのだろうか？

9/21/14 : NY タイムズ : 「ISIS と CIA は癒着しているのか？」

<http://www.nytimes.com/2014/09/21/world/middleeast/suspicious-run-deep-in-iraq-that-cia-and-the-islamic-state-are-united.html? r=0>

バグダッド——アメリカは1か月以上も、イスラム国の過激派に対する強烈な空爆作戦をエスカレートさせてきた。

しかしそれにもかかわらず、バグダッドの市街から、イラク政府の最高レベルにまで行きわたっている、CIA はひそかに、自分が攻撃している同じ過激派の背後にいるという陰謀論を、抑え込むことができないようだ。

http://topics.nytimes.com/top/reference/timestopics/organizations/c/central_intelligence_agency/index.html?inline=nyt-org

「我々は誰が Daesh を創ったのか知っている」と、Bahaa al-Araji 副首相は、土曜日、シーア派聖職者 Moktada al-Sadr の招集したデモ集会で、イスラム国のアラビア語呼称を用いて言った。これは、アメリカの地上軍展開の可能性に対する警告だった。

サドル師は、先週のスピーチで、CIA がイスラム国を創ったのだと言って、公然とこれを非難した。 <http://www.nytimes.com/video/multimedia/10000003127686/gordon-brown-britain-must-honor-pledge-to-grant-scotland-powers.html?playlistId=1194811622186>

いくつかのインタビューから分かったことは、このデモに出席した、**数十人の議員を含む、数千人のほとんどが、同じ説に賛同している**ことだった。

(サドル師はイランに近いと考えられており、この説はイランでも一般的である。) …

Omar al-Jaboul、31、バグダッドの圧倒的なシーア派の中で、スンニ派のムスリム青年もこのラリーに出席して、こう言った——

「イスラム国が、アメリカとイスラエルの創ったものであることは、誰でも知っている事実だ。」

警告者 Everette Stern が、ISIS は、HSBC と JP モーガンの援助を受けていると暴露

「恐ろしい地球的出来事」の2つ目のリンクから取った、次の2分間ビデオで、我々は、ほ

とんど無視されている HSBC (HSBC ホールディングズ、英国系金融大手) の警告者エヴァレット・スターンに出会う。

いま表に出てきているインサイダーとして、スターンは、HSBC や JP モーガンのようなメガ銀行が ISIS を援助していることを証明する、様々な例の一つをひそかに教えてくれる。

9/24: テロリズムを財政支援する HSBC と JP モーガン

<http://investmentwatchblog.com/terrorism-financed-by-hsbc-and-jp-morgan/>

<https://www.youtube.com/watch?v=3TBH9f1Pk60> (動画)

スターンのウェブサイトは更に深い詳細に及ぶ

スターンのサイトの最も挑発的な部分の一つは、彼が連邦準備銀行に提出し、HSBC の被雇用者として彼が目撃した犯罪の規模を暴いた、ある手紙である。

この手紙は、その詳しさにおいて目を見張るものだ。我々の研究調査のスペースが限られているので、1 つの特定の例を含めて、出だしとして十分なだけの内容をここに紹介しよう。

エヴァレット・スターン情報報告 : HSBC についての連邦準備への手紙

<https://tacticalrabbit.com/public-letter-to-treasury-reopening-hsbc-case/>

HSBC の警告者として、私は、「米国反マネー・ロンダリング」法と 2010 年の「Cease and Desist 命令」に対する、言語道断の組織的な違反を観察した。この違反は今日まで継続していると私は信ずる。

HSBC は、これが「米国反マネー・ロンダリング」法と 2010 年の「Cease and Desist 命令」に従っているように見せかけているが、彼らは実際は、これらの規制をかわし、銀行の収益を引き上げるために、違法な金融取引の巨大な金額を承認する、幅広い画策に従事していた。…

この違法な行動は、HSBC が、麻薬取引、テロリスト活動、それに制裁下にある外国政権へのカネの流出に、臆面もなく参加し、これを可能ならしめるという結果をもたらしていた。

スターンは、彼の発見した事実を HSBC の上司に報告したが、様々な場合に、無視さ

れ、馬鹿にされ、嘲笑され、ついには力によって締め出された。

スターンはまた、この情報を CIA および FBI にも報告した。

HSBC は、2012 年 12 月 11 日に、5 つの異なった米政府機関との、5 度の示談合意に入り、それに従って HSBC は、料料と違約金の 19 億 2,000 万ドルを払うことに合意したが、これらの示談合意は、スターンが告訴し、ここで報告している特定の違法行為を公表せず、スターンが HSBC に就職する以前に起こった行動の違法をも隠している。

(十数行省略)

ブルームバーグが 19 億 2,000 万ドルの料料を報ずる

スターンは単に“問題をでっち上げている”のではないかと言う人があるかもしれないので、ここに HSBC の食らった 19 億 2,000 万ドルの料料についての、Bloomberg（世界の最新金融ニュース）の記事をあげておく。

そして注目すべきは——HSBC は、イラン、リビア、スーダン、ビルマ、キューバ、それにメキシコの諸組織を、彼らの示談合意の一部として、財政援助したことを認めた。

これは完全に「敵との取引」条項に違反するもので、彼らは、経済制裁によって遮断されているはずのテロリスト集団にカネを供給した。

19 億ドルの料料は、この調査研究で発見された監視なしの電信送金（un-monitored wire transfers）の 6,710 億ドルと、メキシコからのマネー・ロンダリングの 94 億ドルの中の、ごくわずかの部分でしかない——

7/3/13: 「HSBC の裁判官が 19 億ドルの麻薬マネー・ロンダリング合意を認める」
<http://www.bloomberg.com/news/articles/2013-07-02/hsbc-judge-approves-1-9b-drugmoney-laundering-agreement>

HSBC ホールディングズのアメリカとの 19 億ドルの合意が、連邦裁判官によって認められた。これは HSBC が、ラテンアメリカの麻薬カルテルに、数十億ドルをロンダリングさせた罪科を解消するものであった。

(数行省略)

制裁金

ヨーロッパ最大のこの銀行は、12億5,000万ドルの料料と、6億6,500万ドルの制裁金を、示談の下に支払うことに合意した、と検察側は12月に発表した。

同じ月の公聴会で、ニューヨーク、ブルックリンの米地方裁判官 John Gleeson は、検察側には、この合意には「公表された批判」があり、これによって銀行や管理機関は、この罪科に対するこれ以上の犯罪追及を免れていると言った。

グリーソンは、この取引の実行を監視し続けるつもりだと言い、その下で当銀行は、反マネー・ロンダリング計画を効果的に維持しなかったこと、しかるべき義務の履行を怠ったこと、「敵国との取引条例」と「国際緊急経済権限法」に違反したことに対する告訴に、異議を唱えないことに合意した。

Newsmax（メディア）がずばり詳細を暴露

明らかに、「公表された批判」とは、かなりルースな言葉である。最近では、あまりにも多くのオンライン情報があつて、このような物語は容易く隠ぺいすることができる——そしてそうになった。

次は、警告者エヴァレット・スターンが、HSBC が支払った 19 億ドルについて、「ニューズマックス」へのインタビューで語った内容である——

7/30/14: 「HSBC 警告者：銀行はテロリズムを財政援助している」

<http://www.newsmax.com/Newsmax-Tv/HSBC-Everett-Stern-banks-terrorism/2014/07/30/id/585888/>

HSBC の銀行警告者で Tactical Rabbit 社幹部、エヴァレット・スターンは、HSBC のような銀行は、テロリストを財政支援する会社を知っているだけでなく、自ら取引もしていることを認めた。

「HSBC は“企業犯罪と起訴猶予合意”の一部で、JP モーガンやシティバンクなどもすべて、そういったことを認めています」とスターンは、水曜日、ニューズマックス TV の Ed Berliner に語った。<http://www.newsmaxtv.com/>

「何らかの理由で、主流メディアはこの問題を報道しておらず、アメリカの一般大衆は、これらの銀行が文字通り、次の9・11を財政支援していることを理解していません」と彼は説明した。

スターンは2011年に、HSBCで行われているマネー・ロンダリングを暴露したが、そのとき彼は、この銀行がテロ集団「ヒズボラ」に、数百万ドルを都合してやっていることを発見した。

「私が発見したのは、犯罪的なワイヤー・フィルターの操作でした。

「何億ドルというカネが、ガンビアにある“Caribe スーパーマーケット”から動き出しており、その所有者はTajideen 兄弟社だから、彼らがヒズボラの支援者ということになります」と彼は説明した。

「そしてそのカネが、アメリカを通じてロンダリングされ、またレバノンへ戻っていました。

「それはヒズボラを支援するものでした。これがまさにHSBCで起こっていたことです」と、Tactical Rabbit社幹部は説明した。

米司法省はHSBCに20億ドルの料金を課したが、「それは彼らの5週間の稼ぎにすぎません。そういうことです」と彼は付け加えた。

マネー・ロンダリングは一般にホワイトカラーの犯罪と見られているが、「この者たちは手に、アメリカ兵の血をつけているのです。」

Huffington Post がもっと最近の例を載せている

HSBCはこの5週間分の料金を払った後、きっと「私たちは二度とこういうことは致しません」と言ったであろう——しかし、そうはならなかった。

その1年後、HSBCは、大胆にも再び、テロリズムへの資金援助によって罰金を課せられた。これは直接、エヴァレット・スターンの勇敢な真相公表の努力によるものである。

この話は「ハフィントン・ポスト」にまで届き、“インターネット陰謀説”でないことを証明した。

どうやら、ジョン・グリーンソン裁判官は、彼らへの 19 億ドル判決が出て、これが支払われた後、うまく HSBC の監視ができなかったようである。

エヴァレット・スターンは正しいことをした人の見本である。彼は、HSBC が何億ドルもの資金を様々なテロリスト組織に送っていたことを発見し、これを報告したのだった。

注目すべきは、HSBC が、このデータは自分たちが「自発的に報告した」と言って、手柄顔をしようとしていることである。もちろんこれが暴露されたのは、もっぱらスノーデン・タイプの警告者、スターンのおかげである。

The image is a screenshot of a Huffington Post article. At the top, it says "November 21, 2015" and "HUFF POST POLITICS". Below that is a navigation bar with categories like "FRONT PAGE", "POLITICS", "BUSINESS", etc. The article is by Matt Sledge, posted on 12/18/2013. The main image shows the HSBC logo. To the right, there is a "SUGGESTED FOR YOU" section with a link to an article about Carly Simon. At the bottom of the article image, there are social media sharing buttons for Facebook, Twitter, and Google+, along with a comment count of 13.

12/18/13: 「HSBC がテロリストとの取引に対し、わずかの料料」

http://www.huffingtonpost.com/2013/12/18/hsbc-terrorists_n_4467329.html

大手の米国銀行が、戦闘集団「ヒズボラ」の財政係に資金を送ったことに対し、示談金の合意をした。

HSBC の行為が「故意や暴挙の結果ではなかった」という結論のもとに、米財務省外国資産管理局は、この銀行から 3 万 2,400 ドルの示談金を受け取った。

http://www.treasury.gov/resource-center/sanctions/CivPen/Documents/20131217_hsb.pdf

財務省は、HSBC がハフィントン・ポストへの声明で言ったように、この違反が自発的に報告されたことを考慮した。

かつて HSBC 法令順守担当責任者で、ヒズボラとの取引について彼の監督官に告訴したエヴァレット・スターンは、ハフィントン・ポストに対し、自分は「狂喜と消沈を同時に味わっている」と言った。<http://www.reuters.com/article/2012/07/14/us-hsbc-compliance-delaware-idUSBRE86C18H20120714>

「これは私のやったことですよ、私が報告したのです」と彼は、政府が行動を起こしていることに満足して言った。

しかし彼は付け加えた、「私が収まらないのは、それらがほんの一握りの取引だったことで、何億ドルというカネが送られているのを私は見ているのです。」

スターンは、政府の HSBC に対する強制執行が、この最近の調停で終わりにならないことを願うと言った。

「彼らはテロリズムを財政支援したことを認め、3万 2,000 ドルの罰金を払えと言われました。もし私が同じことをしたら、確実に終身刑でしょう」と彼は言った。

HSBC の料金は、示談合意にかかった費用 4 万 165.7 ドルより低い額である。その合意とは、この銀行が、2010 年 12 月から 2011 年 4 月の間に、アフリカのヒズボラの最大の財政担当者数名のフロントになっている開発会社のために、送金したというものだった。<http://www.treasury.gov/press-center/press-releases/Pages/tg997.aspx>

だから政府監視官の、HSBC は過去 5 年に、「明らかに、いかなる同様の違反」をも冒していないという主張は、眉を吊り上げさせる。

2012 年 12 月に、この銀行は、あるカネを動かしたかどで 19 億ドルの示談金を払うことに合意しているが、このカネは、2012 年の上院報告では、麻薬カルテルと、CIA とアルカーイダを結ぶあるサウジアラビアの銀行を援助したもののようだ。

<http://www.rollingstone.com/politics/news/gangster-bankers-too-big-to-jail-20130214?print=true>

膨大な数の疑われた銀行家の死

ここまで読者が読んでこられたのは、1人の警告者が——様々の“大きすぎて倒れようのない銀行”や金融機関の一つの内部で——暴露することのできものにすぎない。

過去3年間に、スノーデン以後の時代に重なって、膨大な数の暴力死が、銀行や金融業界で起こっている。

これらの“自殺”のほとんどが、いかに疑わしいものであるかを考えると、これは警告者とされる者すべてへの、銀行自体による、集団テロ戦略と言っていいたいだろう。

近い過去における、75件の疑わしい銀行員の死のリストが、Fed（連邦準備）のサイトの「秘密」欄に発表されている。<http://www.secretsofthefed.com/dead-125-scientists-75-high-level-bankers-and-within-24-hours-3-investigative-journalists/>

少なくとも36件が2014年だけで起こっている。インターネットを検索してみれば、これらのリストが、いろんな陰謀分析サイトに、広く出回っていることがわかる。

<http://www.zerohedge.com/news/2014-12-07/riddles-surround-36th-dead-banker-year>

Fedの秘密リストの、一つひとつすべてのリンクが、“Michael Tyler”のブログを指し示しており、ここには陰謀情報とともに、不幸なことに人種差別的内容があがっている。

マイケル・テイラーが本当に本物だったとしたら、同じサイトに、人種差別の内容を、このような真剣な調査と一緒に載せるのはよくない。

これは「陰謀団」が、情報を信用できないものにするために使う手口の一つである。いずれにせよ、このサイトは、我々がネット上で見つけた最大の、証明可能な銀行員自殺のリストである。

ここにタイラーの、2013年から2015年6月までの、66件の銀行員自殺のリストがある。Fedの秘密欄と違って、これらのリンクは、タイラーのもの以外の現実のサイトを指している。

見せかけた自殺は「陰謀団」の常套的戦術

これから読者が読まれるリストの、背後の秘密を理解するためには、若干の追加の情報が必要になる。

私が話し合ったインサイダーの間で“共通の知識”になっていることは、「陰謀団」が警告者を暗殺するときには、それを自殺のように見せかけるということである。

この仕事の典型的なやり方は、“wet worker”（濡れ仕事師）と呼ばれる、カネで雇われた5人からなるチームを使う。仕事1件に対する総経費は、ふつう500万ドルである。

最も汚い仕事をするリーダーが200万ドルを取り、見張りや手伝いをするあとの4人が、75万を取るのが相場である。

伝統的に、カネは現金で支払われる。後に調査のとき、わずかでも取引の痕跡が残らないようにするためである。

アップデート: その後、インサイダーたちの話してくれたところでは、こうしたチームは現在、金（きん）でないと報酬を受け取らないという。キャッシュは役立たない。500万ドルという額は正しい。

優秀な“濡れ仕事師”はサイコパス的性格の人間である——こういう仕事をするとき、恐怖もストレスも感じない。

彼らは必ずきまって、狙う相手が恐ろしい人間だと思わせる情報を与えられ、消されれば誰でも喜ぶのだと言われる。

こうした仕事師の多くは、沈黙を確保するために、最後にはどの時点かで殺される。映画 *Boume Identity* などはこの点で全く正確である。

方法は多種多様

場合によっては、道路をそれる車のように、被害者が自分の暗殺者を全く見ないこともある。また時には、殺し屋が単に相手に歩いて近づくだけということもある。

この時点で彼らがやるのは、昔の“配達ピザの中のピストル”式のものより、もっと発達している。

ひとたび、これら3人が姿を現すと（他の2人は見張っている）、狙われた者は自分に逃げ道が全くないことを直ちに悟る。

彼（女）は、とても静かな、落ち着いたやり方で話しかけられ、時には、運命を受け入れていただいたことに、心からの謝意を申し上げる場合もある。

被害者は、もし自分で自殺の遺書を書かなければ、彼（女）の知り、愛するすべての人が、残忍に拷問され、殺されるだろうと言われる。

多くの場合、彼らは、最初に気を失わせる、痕跡の残らない鎮静剤を与えられ、何をされても意識のない状態にされる。

これはまた、この仕事は戸外の場所とか、アパートのような、人の多い住宅施設で行われるとき、大声を出させないようにするのに役立つ。

仕事師たちはまた、自分で工夫して、いろんな方法を使うように訓練されているから、連続殺人に見られるように、彼らの仕事が“署名”を残すことはない。

その上、2006年以降のすべての車は、ある秘密の法規制で、リモコンによってハックも運転もできるようになっているから、誰かを外へ連れ出すのはより容易くなった。

<http://divinecosmos.com/index.php/start-here/davids-blog/1163-white-hats-car-hacking>

2014年だけで44件の、銀行員の不審死の時系列リスト

死者たちを称えるために、我々は、彼らの死の一つひとつを調べ、その物語への高精度のリンクを突き止め、時系列に並べた。

疑わしい銀行員の死の、他のリストには、タイラーのサイトにはない名前が含まれているが、それらの名前もここに含まれている。

2013年分のタイラーのリストには、17件の不審死が載っているが、スノーデンが世界を変えた2013年12月以降に、この出来事の最大の波が始まっている。

我々は2012年12月から出発し、2014年末まで続けるが、この1年の前にも後にも、これ以上の多くの不審死があった。

これらのいくつかは間違いなく、本物の自殺または事故で、ヤラセ殺人ではない。しかし異常な事件の1年間の件数そのものが、我々の関心を引く。

(訳者：以下のリストは、最初の3項目を除いて、件数だけあげておく。完全なリストは、Divine Cosmos の “DISCLOSURE SHOWDOWN: The Way For The Truth” をご覧願いたい。)

2013年12月

12/7/13: Joseph Ambrosio, 25, JP モーガン金融アナリスト、急性呼吸器症候群による急死——[リンク1](#)、[リンク2](#)

<http://www.legacy.com/obituaries/mycentraljersey/obituary.aspx?pid=168438231>

<http://wallstreetonparade.com/2014/04/suspicious-deaths-of-bankers-are-now-classified-as-%E2%80%9Ctrade-secrets%E2%80%9D-by-federal-regulator/>

12/14/13: Benjamin Idim, 25, ナイジェリア、ダイヤモンド・バンク重役、200万ナミビア・ドルを持って自動車事故死、80万だけ回復——[リンク](#)

<http://www.lindaikejisblog.com/2013/12/missing-money-controversy-trails-death.html>

12/15/13: Jason Alan Salais, 34, JP モーガンの情報技術スペシャリスト、Walgreens 薬局の外で死んでいるのを発見——[リンク](#)

<http://wallstreetonparade.com/2014/02/another-sudden-death-of-jpmorgan-worker-34-year-old-jason-alan-salais/>

以下略、全部で5件

2014年1月	4件
2014年2月	5件
2014年3月	5件
2014年4月	8件
2014年5月	7件
2014年6月	3件
2014年7月	3件
2014年8月	1件
2014年9月	1件
2014年10月	2件
2014年11月	4件

恐怖を創り出す

このデータを公表することは問題であることを、認めなければならない。インサイダーたちは、人々がこうしたことを知るのは“有益な”恐怖を創り出すので、「陰謀団」は喜ぶのだと繰り返し言っている。

“有益な恐怖”とは何だろう？ それは、予期しなかったピサが配達されたとき、ドアを閉めるように言われていることとは関係がない。

彼らはあなたに、恐怖を植え付けたいのである。そうすれば、あなたは決して大声で発言したり、彼らを止めようと行動したりしない——次の番はあなたかもしれないからだ。

この点をはっきりさせておこう。小説『1984年』で我々が警告された「ビッグ・ブラザー」は、究極的には、信用詐欺ゲームなのである。

今では監視が、世界的な、避けられない事実だということを我々は知っているが、この組織で働いている人たちはわずかしかない。

スノーデン後の時代になって、不満のレベルが大いに高まったからだ。

一人ひとは複雑な個人であって、ドローンではない。彼らは自分がやっていることに、入り混じった感情をもっている——控えめに言っても。

いま何億という人々が、「陰謀団」の最も深い秘密をネット上で知るようになった。この時点で、これを知ろうとすることの危険はほとんどない。

無数の人々がこれらの秘密について書き、またビデオを作成している。そして彼らは干渉されることなく、何年もそれを続けている。

真相が広がるのを防ぐために、目をつけられ殺される警告者もあるが、それはごくまれなケースである。

高くつきすぎる

覚えておくべきもう一つのポイントは、偽装殺人が高くつくということである。たった100人でもプロの殺し屋に依頼してこれを除くには、5億ドルかかる。これはたちまち大変な金

額になる。

読者が今読まれたケースのすべては、おそらく割に合わないと考えられただろう——「陰謀団」の財政的能力が低下しつつあることを考えれば。

こう言う人があるかもしれない、「それはどういう意味だ？ 彼らはただ、無からカネを印刷するだけで、好きなだけ使うことができるのではないのか？」と。

歴史的にはその通りだった。しかし今日の背後世界では、そうはいかなくなった——彼らに反抗する国際的蜂起が、いま起こっているからである。

連邦準備銀行のドルは、確かにこれまでは“地球的準備通貨”だった。しかし巨大な運動が今起こって、それを変えつつある——後に論ずるように。

2008年の（銀行）救済金は、前例を見ない規模の絶望の動きだった。Fedは、彼らの生き残りのためにそれが絶対必要でなかったら、そんなことはしなかつただろう。

次のセクションで我々が出会う「同盟」は、「陰謀団」へ流れるカネの源をすべて断ち切ろうと、大変な努力をしてきた——そして非常にうまくやっている。

「同盟」は2008年には成功すると考えていた——そして、そもそも救済措置を取らざるを得ないようにした金融の断絶は、彼らのやったことである。